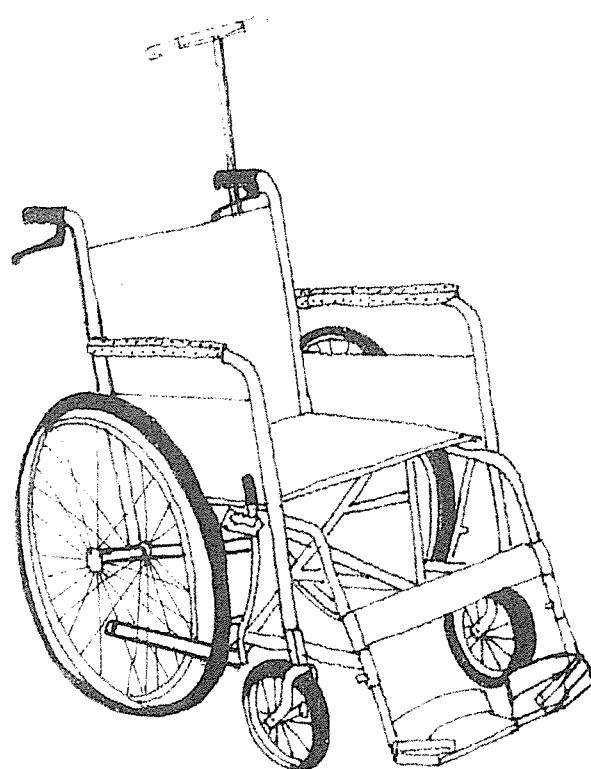


# 体位・姿勢の保持、移動

車椅子移乗における転倒転落



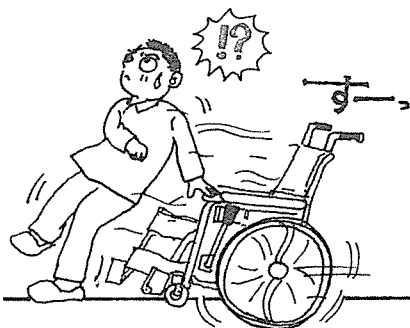
# 転倒・転落

こんなヒヤリハットが起きています

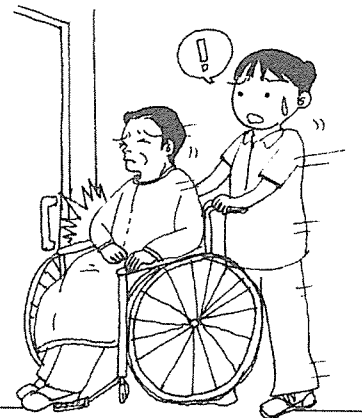
- 支えきれずに患者がよろけた。患者を抱えたまま倒れそうになった。
- 患者が地面に滑り落ちた。
- 支えきれずベッドに落ちた。
- 車椅子の座面に勢いよくドスンと坐らせてしまった。



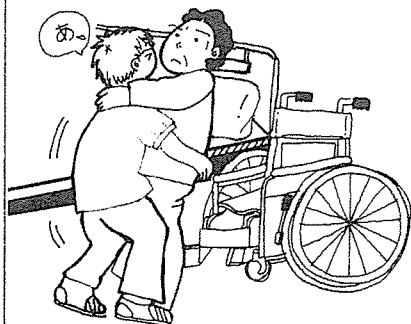
- 車椅子のストッパーが十分にかかっていなかった。
- 坐らせようと思ったら車椅子が動いて、患者を驚かせてしまった。
- ベッドのストッパーがかかっていなかった。



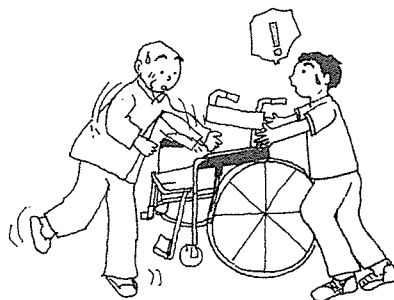
- 車椅子の足台で患者の足を傷つけた。浮腫が著明で傷つきやすく、出血した。
- ベッド柵に頭を軽くぶつけた。
- 移動中、患者の肘をドアにぶつけた。
- 患者さんの足を壁にぶつけた。
- バックして移動していたら、他の患者にぶつけた。



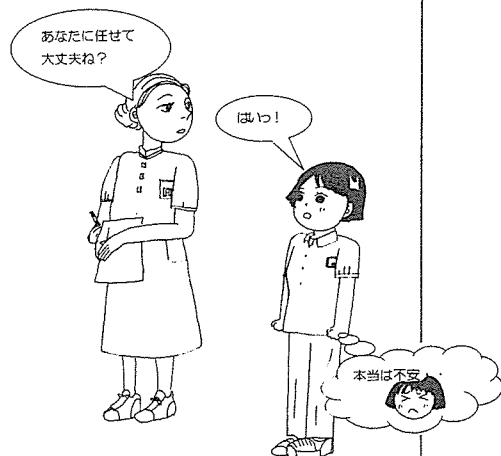
- ベッドと車椅子の間が広すぎた。



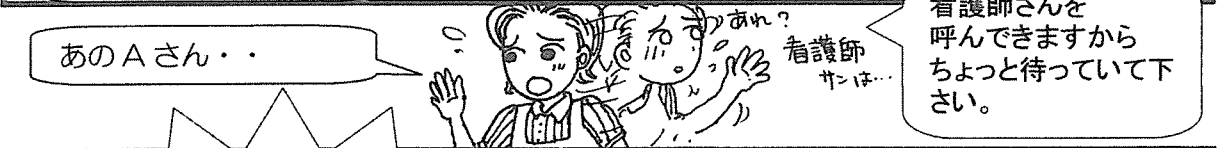
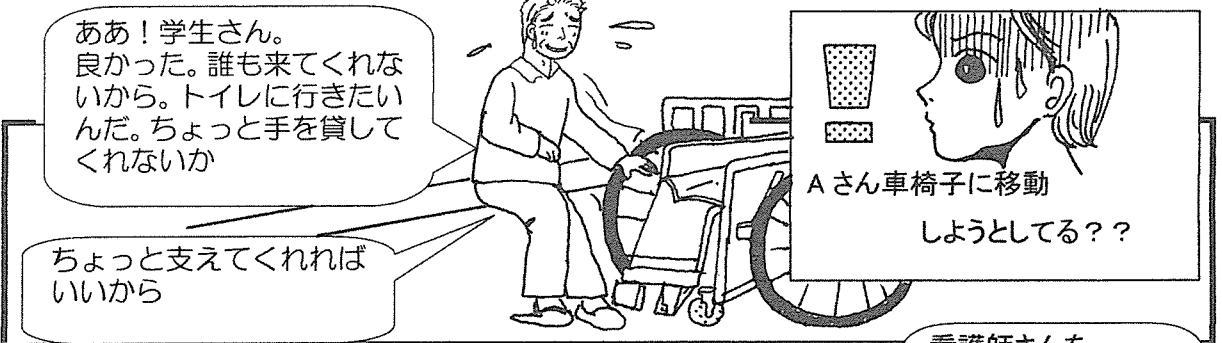
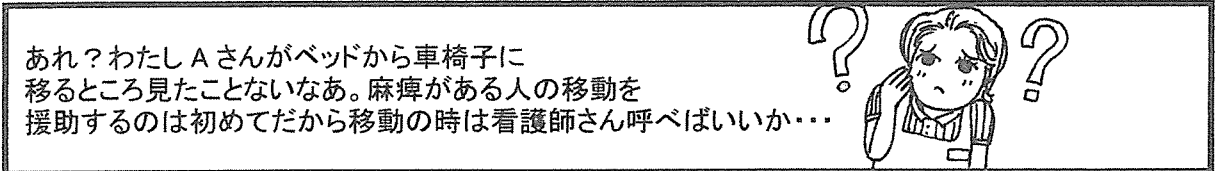
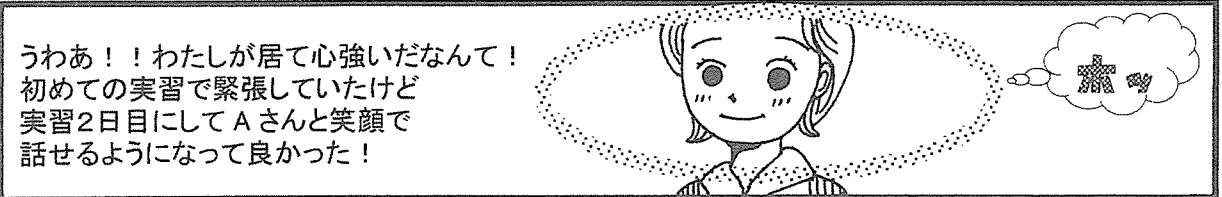
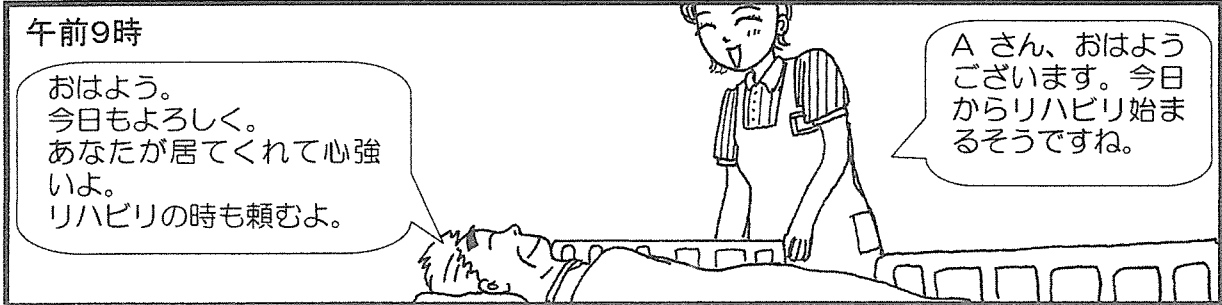
- 患者が一人で起き上がり、車椅子に移乗しようとしているのを発見した。
- 自力で可能と思って見守っていたら、転倒しそうになった。



- スタッフから「移動を任せるわね」と言われ、断り切れず、自信がないまま行いふらついてしまった。



よくある事例：はやくしないと漏れるよ！



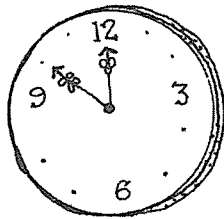
安全なケアをするために：ヒヤリ・ハットを回避するためのポイント

事前に押さえておきましょう

■あなたの患者さんはどんな人？

- 移動能力はどうか  
独歩可能か、立位保持可能か、座位保持可能か。
- 医療器機を装着していませんか  
酸素、点滴、経管栄養などのチューブ類など。
- 麻痺はありますか  
麻痺側への考慮（車椅子の位置、支える位置、麻痺側肩関節脱臼予防のための三角巾着用の工夫など）。

- 日内変動はありますか  
パーキンソン病など移動能力が一日のうちに変化する場合には、今がどの時期か。



- 患者さんの意識状態はどうか  
患者さんは移動介助についてどう思っているか、術後や、臥床状態が続いたあとの意識・認知状態の変化はどうか。

■車椅子移動の基本動作

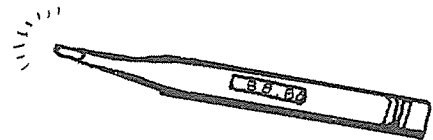
- 患者さんの特性によって支え方が異なります。  
まずは、車椅子の移乗と移動の基本技術を復習しておきましょう。

■使用する車椅子をチェックしましょう

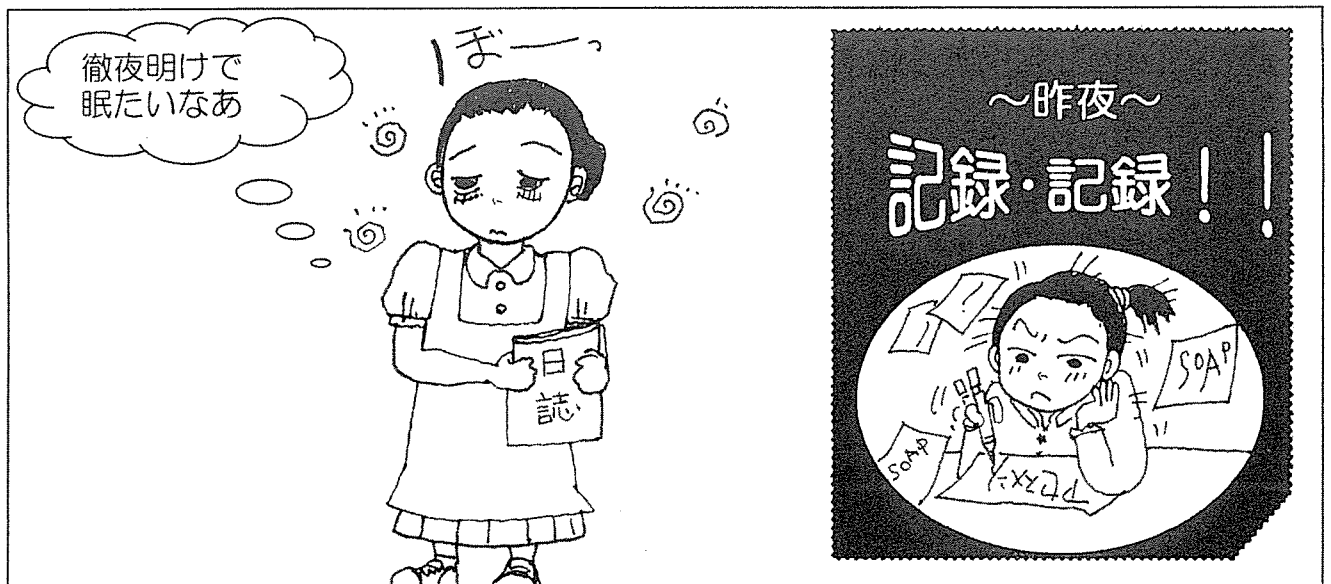
- ストッパーはかかりますか。
- リクライニングをブレーキと勘違いしていませんか。
- タイヤの空気圧、動きに問題はありませんか。
- 座面は平らで破損はありませんか。
- フットレストの位置や固定に問題はありませんか。
- 酸素が必要な患者さんの場合は、酸素ボンベがついていますか、残量はどれくらいありますか。
- 点滴治療を受けている患者さんの場合は、点滴をかけるスタンドはついていますか。

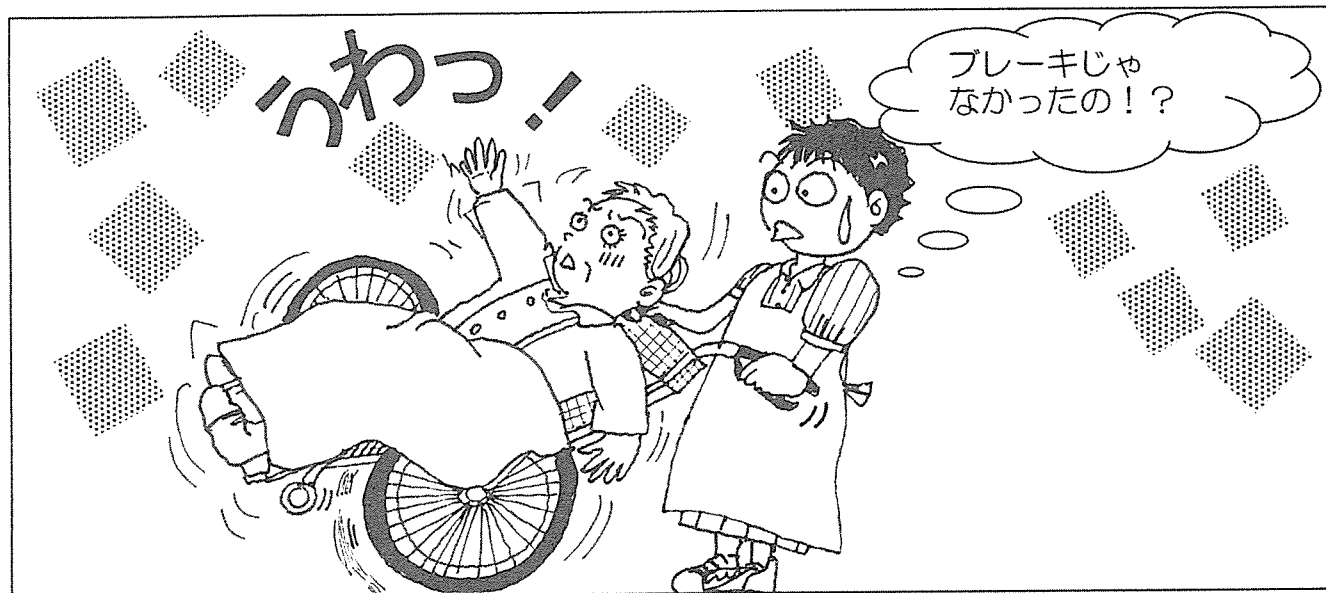
■あなた(学生)の準備状況

- 車椅子に関する援助はどこまで学習していますか。
- 過度な不安、緊張はありませんか。



- 今日の体調はどうか。
- 患者さんとの関係はどうか。
- 臨床指導者や教員に助けを求められますか。
- 何かあった時の対処法はわかっていますか。





## 車イスを利用した援助を行うときのポイント

### ■学生一人で安全に行えますか

#### • その患者さんへの援助がはじめての時

患者さんの特性によって、様々な工夫が必要となります。その患者さんの車椅子を利用した援助をはじめて行う時には、臨床指導者か教員についてもらうようにしましょう。2回目以降も一人で行ってよいか、臨床指導者か教員に確認しておきましょう。

#### • 事前打ち合わせ(学生が何を援助するか)

臨床指導者や教員と、車椅子を利用した援助(操作・移動)の注意点を事前に確認しておきましょう。どこまで学生が援助して、どこを臨床指導者や教員に助けてもらうかについて打ち合わせをしておきましょう。

#### • 援助者は一人でよいですか

車椅子移乗時に、患者さんの身体能力によっては援助者に過度の負担がかかることがあります。体格から考えて一人では難しい場合や、少しでも不安がある場合は、臨床指導者や教員についてもらいましょう。

#### • 「任せるわね」と言われ一人になった

自信がないことを実施しなさいと言われたら、

お互いの安全のためにも、できないことを明確に伝えましょう。

#### • 臨床指導者や教員を呼びに行く間

指導者や教員を呼びに行く時、患者さんのそばから離れる場合は患者さんを一人にしてよいかを必ず考えておきましょう。離れている間に患者さんが一人で動き出しそうな時は、ベッドサイドなどに一人にせず患者さんと一緒に呼びにいたり、ナースコールなどで助けを呼びましょう。

### ■患者さんからの要求に困った時

#### • 患者さんが急いでいる時

トイレなどの欲求で急いでいる時には、その気持ちを受け止めつつあわてず対応しましょう。一人での援助が難しい場合は、ナースコールなどで助けを呼びましょう。

#### • 援助が必要なのに一人で動こうとしているとき

一人で動こうとする理由を聞いてみましょう。安全に移動するためにどんな援助が必要であるかについて、患者さんがわかるように説明してみましょう。学生一人での説明が難しいときには、指導者や教員に助けを求めましょう。

### ■移動の環境を整えましょう

#### • 車椅子を置く位置

座位保持可能であれば、端座位になった後に車椅子の位置を調整できますが、座位保持ができない場合は、あらかじめベッドに車椅子を近づけておき、移動距離が短いようにしましょう。

#### • 障害物の除去

援助者が動きやすいようにつまずきやすい荷物や点滴スタンドなどを片づけておきましょう。

#### • 患者さんの服装

ズボンのすそや膝掛け、点滴などのチューブ類は移動時に引っかからないようまとめておきましょう。靴の位置も患者が履きやすい位置に置いておきましょう。

#### • ベッド

ベッドの高さは、端座位時に患者さんの足底がつき、車椅子との高さの差をなるべく少なくしましょう。また、ベッドのストッパーがきちんとかかっているかも確認しておきましょう。

### ■患者さんの特性に合わせて行いましょう

#### • 移動能力

**独歩：**独歩可能な場合は、まず患者さんが車椅子へ(から)移乗する数歩の間につまずかないよう障害物を除去しておきます。独歩可能といっても不安定な歩行の患者さんの場合は、どうしても不安定なのかを考慮して援助しましょう。

**立位：**立位保持可能であれば、立位時に一度患者さん自身で立てるよう重心を感じてもらいましょう。その後、移乗先を確認し回転していきましょう。可能であれば、移乗先のベッド柵など安定したところをつかんでもらいましょう。

**座位：**座位保持可能な場合は、座位保持されたのを確認し、履き物・車椅子を調整しましょう。座位が難しい場合は、患者さんの体を必ず支えましょう。支えたまま移乗の体勢をとるのが難しい場合は、あらかじめ援助者二人で行うようにしましょう。

#### • 医療器機の装着

**車椅子へ(から)の移乗：**チューブ類はできるだけ余裕を持たせた上でまとめ、移乗動作中に引っかからない位置にあらかじめもってきておきましょう。酸素や点滴など速度や流量設定のあるものは、前後で必ず変化がないか確認をしておきましょう。

**車椅子での移動：**乗車中にチューブ類が車輪に巻き込まれないよう、チューブの走行を調整しておきましょう。

#### • 麻痺の有無

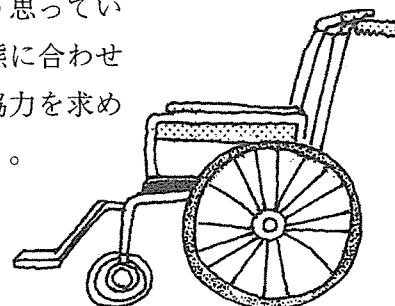
麻痺があることで、立位や座位保持に影響をきたします。患者さんの麻痺の程度と能力を考慮し、どこまで援助し、どこまで本人の力で行うのかを考えておきましょう。移乗時にフットレストに麻痺足を引っかけて傷つけないよう、車椅子の位置を調整しておきましょう。また、移送時に麻痺側の腕や足が落ちて、車輪に巻き込まれたり、床にひきずられたりしていないか、移送中も常に注意しましょう。

#### • 日内変動の有無

患者さんの身体能力は一定ではないことを考慮して、援助方法をそのたびに検討しましょう。パーキンソン病のような疾患上の要因はもちろん、寝起き時、リハビリ(運動)直後などの変化に注意しましょう。

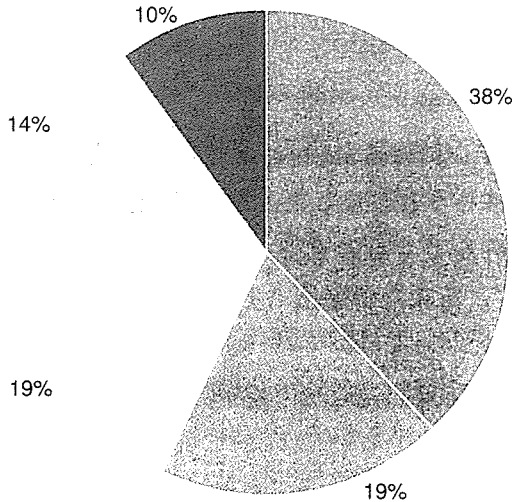
#### • 患者さんの意識状態

患者さんは車椅子移動に関してどう理解しているかを考慮し、援助前に理解しやすい言葉で説明を行いましょう。術後や、臥床状態が続いたあとの意識状態の変化はどうか、援助されることについてどう思っているか、その状態に合わせて患者さんに協力を求めていきましょう。



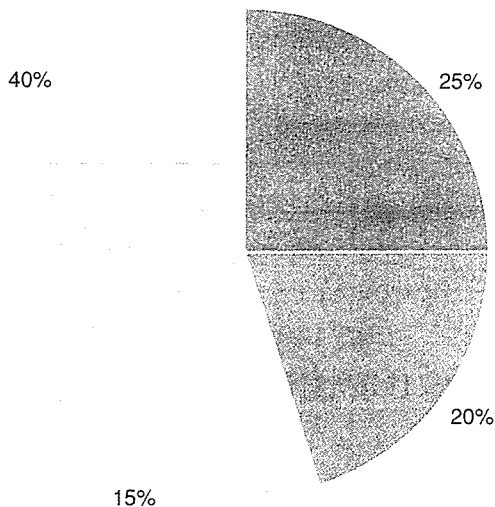
## 調査結果による Evidence

### ●学生の予見・予測の特徴



- 危険を予測しても回避する援助行為に結びつかなかった
- 危険を予測し配慮して行動したつもりが十分でなかった
- 危険を全く予想していなかった
- 何となく危険を感じていても判断できなかった
- その他

### ●実施中の学生の思考の特徴・多重課題の存在



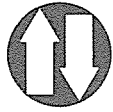
- 自分の手技・知識があやふやで不安
- 家族や患者からの強い要請、拒否に対し待つように言えない、言うことを聞いてくれない
- 大丈夫だろう(ひとりできる)という思いこみ
- その他

車椅子移乗時に起きた転倒転落のヒヤリハットは、高齢の患者さんに多い特徴がありました(患者平均年齢73.5歳)。疾患・状態別に見ると、脳梗塞・脳出血・麻痺のある患者(40.9%)、臥床(寝たきり・衰弱・筋力低下)状態の患者(27.3%)、がん患者(13.6%)に多く報告されました。

車椅子移乗時によろけたり、足がもつれるといった体験をした学生は2, 3年生に多く(78.2%)、基礎・成人看護学実習中に起きています(78.2%)。実習3日目(26.1%)に比較的多く報告されており、実習に少し慣れてくる時期に起こりやすい特徴がうかがえます。95.7%が病室内での出来事でした。

車椅子移乗の前に、何らかの危険を予測していた学生が38.1%でした。自分の手技や知識があいまいで不安なまま、実施していました(25%)。また、この技術の特徴として、患者や家族から切羽詰った状況で援助を依頼され、自信がなくても断りきれないためにヒヤリハットが生じているという特徴がありました(20%)。

課題：やってみよう



これまで学習してきたことをふまえて、今あなたが行おうとしている患者さんの車椅子援助ではどのようなリスクがあるかを考えながら、もう一度援助の方法を考えてみましょう。



寝たきりで体力低下のある高齢のAさんが、「トイレに行きたい」とベッドから起きあがり、柵をおろしてそばに置いてあった車椅子に移ろうとしました。学生は《臨床指導者さんと呼ばに行かないと!》と思い、「ちょっと呼んでくるので待っていてください」と言うと、Aさんは「一人で移れるから大丈夫だし、あなたが手伝ってくればいいじゃないか」と自信に満ちた表情で言いました。

リハビリも進んでいるから・・・  
車椅子へは一人で移れるよ



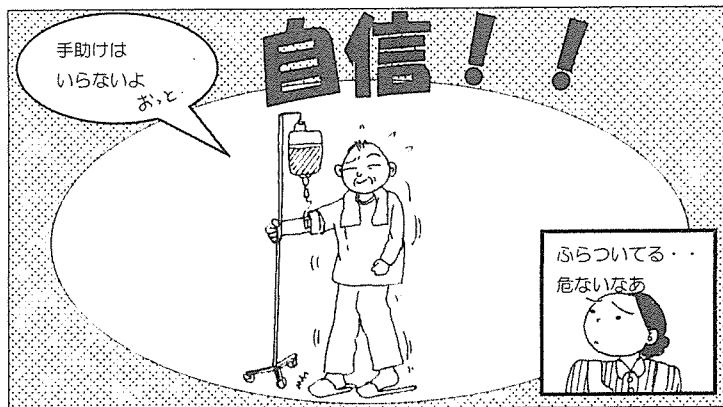
ご本人がやる気十分でわたしも嬉しいけれど・・・  
一人で移動するのは初めてだから看護師さんに相談してみよう。  
移動の時は滑らないような靴にはきかえてもらわなくちゃ



## 課題：やってみよう

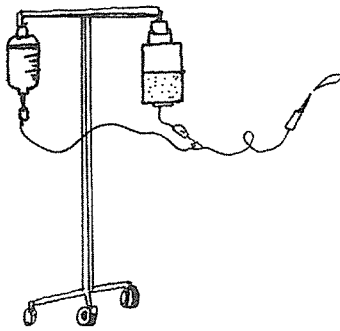
## 事例1への対応策

- 学生 A：患者さんに頼まれたら、嫌とは言えない。患者さんも大丈夫と言っているの、なんとかやってみる。  
コメント：× このような対応が最も危険です。大丈夫かも・・・と思ってやったことが、事故につながります。
- 学生 B：指導者さんや先生を呼びに行く。  
コメント：× 患者さんを待たせている間に、1人で車椅子に移ろうとするかもしれません。その場を離れないことが大切です。
- 学生 C：同室患者の受け持ちをしている他の学生に手伝ってもらって、2人で介助する。  
コメント：× 学生同士が力を合わせて実施しても、あやふやな知識と技術では対応できません。
- 学生 D：ナースコールを押して、助けを求める。  
コメント：○ 最もよい対応です。学生として今、何を手伝ってもらいたいのか伝えましょう。



### 学生がひとりで実施して 例えば、こんな事例があります

- 患者さんが起き上がり、靴を取ろうとしてバランスを崩してベッドから落ちた。
- 患者さんが一人でできるというので見守っていたら、足に力が入らずその場に崩れるように倒れた。
- 車椅子の位置が遠くブレーキもかかっていなかった。患者さんが車椅子の手すりをつかみ体重をかけたら、車椅子が動いて、患者さんはそのまま倒れた。
- 介助していても、患者さんが自分で動こうとするため、バランスを崩し一緒によろけた。
- 患者さんの体重を支えきれず、倒れ込むように座った。
- 助けを呼びに行っている間に、患者さんが一人で移動しようとして、床に転倒していた。



## 「看護学実習におけるヒヤリ・ハット事例」

### 評価のご協力をお願い

この調査では、臨地実習における学生のヒヤリ・ハット体験に基づいて作成した看護技術の資料を評価していただき、改善を行うことを目的としています。資料に取り挙げたのは、学生のヒヤリ・ハットのうち頻度の高いもの、学生ならではのヒヤリ・ハットがみられた看護技術です。みなさまのご意見を基に、実り多い臨地実習のための心強い味方となる資料をめざし、改善してまいります。

調査票は無記名でご記入いただき、個別に返送していただけるように配慮をしています。また、データは統計的に処理いたしますので、個人や所属している学校を特定できるようなことは一切ございませんし、本研究目的以外にデータを使用することはありません。

回答に要する時間はおよそ30分です。

本研究結果は関連学会等で発表する予定です。その際にも個人や所属している学校を特定できないように配慮いたします。なお、研究結果については、所属している学校宛に報告書を送付します。

どうぞ、この研究の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。調査への協力の有無にかかわらず、配布した「看護学実習におけるヒヤリハット事例」は返却しなくてもかまいません。

#### ■記入上の注意事項■

まず、お配りいたしました資料「看護学実習におけるヒヤリ・ハット事例」をお読みください。

回答は、各設問の指示にしたがってお答え下さい。該当する番号に○をつけていただくものと、必要箇所に数字をご記入いただくもの、および空欄に自由記述をしていただくものがあります。

ご記入いただいた調査票は、この調査票が封入されていた返信用封筒に入れ、平成19年1月末までにご投函下さい。

なお、ご不明な点がありましたら下記までご連絡下さい。

#### ■連絡先

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学  
川嶋 みどり (代表)  
吉田 みつ子 (事務取扱)

TEL : 03-3409-0153 (12:10~13:10)  
FAX : 03-3409-0589

I. 以下の質問について、当てはまる項目の番号を○で囲み、また□内には適当な数字をご記入下さい。

Q1. あなたの年齢をご記入下さい。 □ 歳

Q2. あなたの性別の番号を○で囲んでください。 

1. 男	2. 女
------	------

Q3. あなたは現在何年生ですか。

1. 2年生	2. 3年生	3. 4年生
4. 編入3年生	5. 編入4年生	

→ 「4. 編入3年生」又は「5. 編入4年生」と答えた方は □ 年  
編入学以前の臨床経験年数をご記入下さい。

Q4. あなたがこれまでに経験した実習の、合計回数をご記入ください。

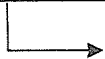
合計 □ 回

Q5. あなたがこれまでに経験した実習の種類番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 基礎看護学実習	2. 成人看護学実習	3. 小児看護学実習
4. 母性看護学実習	5. 老年看護学実習	6. 精神看護学実習
7. 在宅看護論実習	8. 地域看護学実習	9. 総合実習
10. 助産学実習	11. その他(                    )	

Q6. あなたの学校では、卒業までに医療事故に関する授業科目(講義や演習)がありますか。

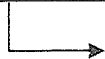
1. ある	2. ない
-------	-------



「1.ある」と答えた方は授業名を教えてください。

Q7. あなたはこれまでに受けた授業の中で、医療事故に関する内容について聞いたことがありますか。

1. ある	2. ない
-------	-------



「1.ある」と答えた方はその内容を教えてください。

Q8. あなたはこれまでに車椅子移乗動作の援助の中でヒヤリ・ハットを体験したことがありますか。

1. ある	2. ない
-------	-------

II. 資料「看護学実習におけるヒヤリ・ハット事例」を読んで、以下の質問について、  
当てはまる項目の番号を○で囲んでください。

Q1. この資料を手にとりて読もうという気持ちになりましたか。(○は1つ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. とても思った    | 2. 少し思った      |
| 3. あまり思わなかった | 4. まったく思わなかった |

Q2. 車椅子移乗動作の援助を行うときに、自分もヒヤリ・ハット体験を起こすかもしれないと思いましたか。  
(○は1つ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. とても思った    | 2. 少し思った      |
| 3. あまり思わなかった | 4. まったく思わなかった |

Q3. 車椅子移乗動作の援助を行うときに、どんなヒヤリ・ハットが起こりやすいか、わかりましたか。  
(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

Q4. 車椅子移乗動作の援助を行う際に、事前に患者さんの特性を把握することについて

1) どのような点を事前に把握すればよいか具体的にわかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

2) 実際の援助のときに、事前にそのことを把握できそうですか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. かなりできそう    | 2. 少しできそう      |
| 3. あまりできそうにない | 4. まったくできそうにない |

Q5. 車椅子移乗動作の援助を行う際に、学生自身の準備状況(学生自身の学習状況、不安・緊張、体調など)を整えることについて

1) どのようなことを整えればよいか具体的にわかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

2) 実際の援助のときに、学生自身(自分自身)の準備状況を整えられそうですか。(○は1つ)

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. かなりできそうな気持ちになった    | 2. 少しできそうな気持ちになった      |
| 3. あまりできそうな気持ちにならなかった | 4. まったくできそうな気持ちにならなかった |

Q6. 車椅子移乗動作の援助を行う際、患者さんからの要求に困ったとき、

1) どのように対応すればよいかわかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

2) 実際にそのような場面に遭遇したとき、対応できそうですか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. かなりできそう    | 2. 少しできそう      |
| 3. あまりできそうにない | 4. まったくできそうにない |

Q7. 環境(車椅子を置く位置、障害物の除去、患者の服装など)を整えることについて

1) ヒヤリ・ハットを起こしやすい環境がどのようなものか具体的にわかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

2) 実際の援助のときに、そのことを考慮して移乗動作ができそうですか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. かなりできそう    | 2. 少しできそう      |
| 3. あまりできそうにない | 4. まったくできそうにない |

Q8. 車椅子移乗動作の援助を行う際に、患者さんの特性に合わせて行うことについて

1) そのことが重要であることが具体的にわかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

2) 実際の援助のときに、そのことを考慮してできそうですか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. かなりできそう    | 2. 少しできそう      |
| 3. あまりできそうにない | 4. まったくできそうにない |

Q9. どのような状況あるいは原因で、車椅子移乗動作の援助の際にヒヤリ・ハットが起こりやすいか、わかりましたか。(○は1つ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. とてもよくわかった  | 2. 少しわかった      |
| 3. あまりわからなかった | 4. まったくわからなかった |

Q10. この資料を読んで、安全に車椅子移乗動作ができそうだと思いますか。(○は1つ)

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. かなりできそうな気持ちになった    | 2. 少しできそうな気持ちになった      |
| 3. あまりできそうな気持ちにならなかった | 4. まったくできそうな気持ちにならなかった |

Q11. 車椅子移乗動作の援助を実施する前後に自己学習の資料として、今回の資料を活用したいと思いましたか。(○は1つ)

1. とても思った	2. 少し思った
3. あまり思わなかった	4. まったく思わなかった

Q12. この資料は手元において常に使いたいという内容だと思いましたか。(○は1つ)

1. とても思った	2. 少し思った
3. あまり思わなかった	4. まったく思わなかった

Q13. この資料の説明文はわかりやすいと思いましたか。(○は1つ)

1. とても思った	2. 少し思った
3. あまり思わなかった	4. まったく思わなかった

Q14. この資料の事例は具体的だと思いましたか。(○は1つ)

1. とても思った	2. 少し思った
3. あまり思わなかった	4. まったく思わなかった

Q15. この資料の事例は実際に自分たちが体験するような内容だと思いましたか。(○は1つ)

1. とても思った	2. 少し思った
3. あまり思わなかった	4. まったく思わなかった

Q16. この資料のデザインについて、感想をお答えください。(①から⑨それぞれ○は1つ)

	とてもよい	少しよい	少し悪い	とても悪い
①色づかい	1	2	3	4
②ページの配置	1	2	3	4
③全体の分量	1	2	3	4
④1ページに含まれている情報量	1	2	3	4
⑤字の大きさ	1	2	3	4
⑥書体(フォント)	1	2	3	4
⑦イラストの印象	1	2	3	4
⑧イラストの量	1	2	3	4

Q17. この資料についてよかったこと、印象に残ったことをご自由にお書きください。

Q18. この資料について改善してほしいことをご自由にお書きください。

Q19. その他、この資料について何かお気づきの点がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。